

viscount®

ヴァイカウントクラシックオルガン

Jubilate

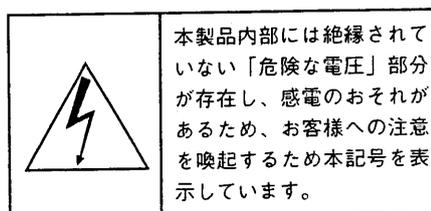
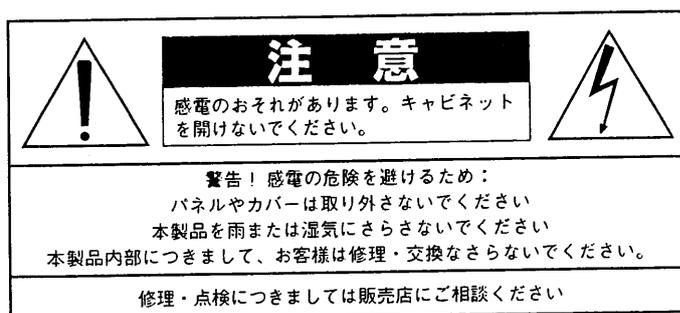
ジュビレイト230 取扱説明書

はじめに

このたびは、ヴァイカウントクラシックオルガン、ジュビレイト230をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ジュビレイト230は、伝統的なパイプオルガンの魅力を最新の電子テクノロジーによってあますところなく再現したクラシックオルガンです。ジュビレイト230の多彩な機能をスムーズに使いこなし、オルガン演奏を心ゆくまでお楽しみいただくために、ぜひこの取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も、ご不明点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

※この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。

安全上のご注意…ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をお読みください。



「火災、感電のおそれ、あるいは人体への危害に関する注意事項」

警告：本製品のご使用にあたっては、以下の点に注意してください。

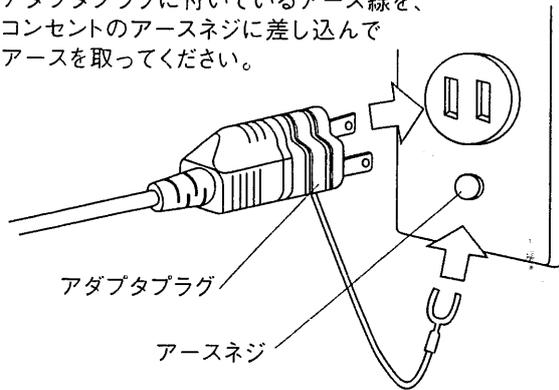
- 1) 本製品を使用する前に取扱説明書をよくお読みください。
- 2) お子様の近くで使用する場合には、ケガ防止のため十分な注意を払ってください。
- 3) 本製品は水回りでは使用しないでください。例えば浴槽、洗面台、台所の流し付近、濡れた床の上、あるいはプールの近く、その他これに類する場所では使用しないでください。
- 4) 本製品は、単独もしくはアンプ、ヘッドホン、スピーカーと組み合わせて使用した場合、過大な音量により聴力障害を引き起こすおそれがあります。過大な音量、または不快感を招くような音量での長時間の使用は避けてください。
- 5) 本製品はラジエーター、熱器具、その他熱を発生する製品から離して設置してください。
- 6) 長時間ご使用にならない場合には、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 7) 本体に物を落としたり、液体が流れ込まないように十分注意を払ってください。
- 8) 以下の場合、サービス担当者が本製品の修理・点検を行います。
 - a. 電源コードまたはプラグが破損した場合
 - b. 製品に物が落ちたり、液体が流れ込んだ場合
 - c. 製品が雨にさらされた場合
 - d. 製品が正常に作動していない、あるいは演奏状態に著しい変化が生じた場合
 - e. 製品を落としたり外装が破損した場合

安全上のご注意（追加）

- 1) 十分な換気の為、機器は壁から5cm以上離して設置して下さい。
- 2) 機器設置の際、換気穴を塞がないようご注意ください。
- 3) 機器上に裸火(ろうそく等)を置かないで下さい。
- 4) 機器上に水の入った花瓶等を置かないで下さい。
- 5) 機器は電源コンセントの近くに配置し、電源プラグに容易に手が届くように使用して下さい。
- 6) アース接続は、必ず電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。又、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを主電源から切り離してから行って下さい。

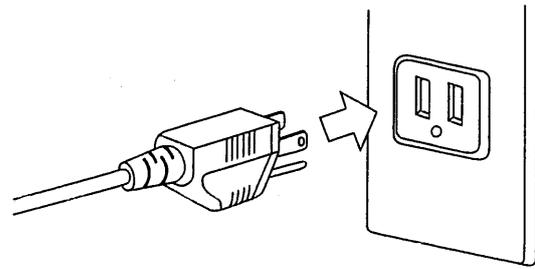
コンセントの穴が2つの場合

アダプタプラグに付いているアース線を、
コンセントのアースネジに差し込んで
アースを取ってください。



コンセントの穴が3つの場合

アダプタプラグを取り外してから、
コンセントに差し込みます。



目次

パネル図	P6
第1章 左側パネルのコントローラー	P8
第2章 中央パネルのコントローラー	P9
第3章 右側パネルのコントローラー	P11
第4章 手鍵盤部パネルのコントローラー	P11
第5章 ペダル部のコントローラー	P13
第6章 アンダーパネルのコントローラーと接続端子	P13
第7章 リセットとローカルオフ	P15
資料 MIDIインプリメンテーションチャート	裏表紙

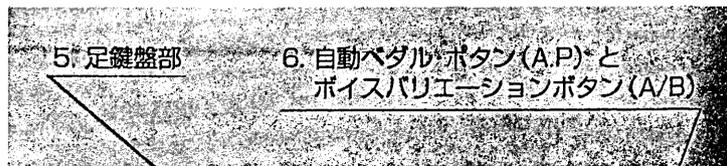
注意!

■リチウム電池の警告：本製品にはリチウム電池が使われています。電池を間違えて取り替えると爆発の危険があります。電池交換の場合は現在使用のものと同等のものをご使用下さい。正しい極性でご使用ください。使用済み電池は、電池メーカーの指示にしたがって処分してください。

■本取扱説明書に記載された情報は、商品の仕様変更にともない、予告なしに変更される場合がございます。

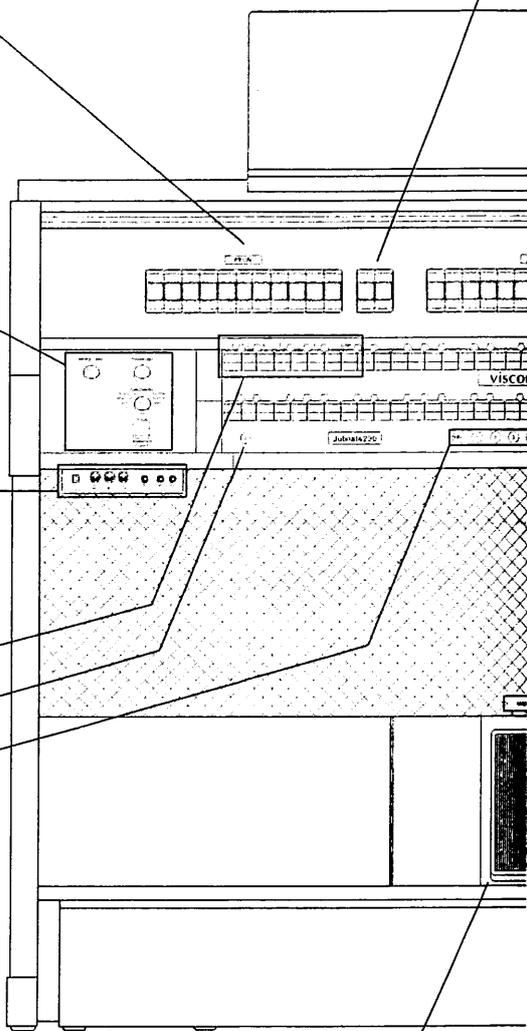
あらかじめご了承ください。

JUBILATE 230



P.8
第1章

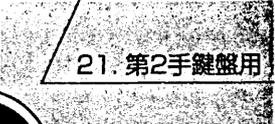
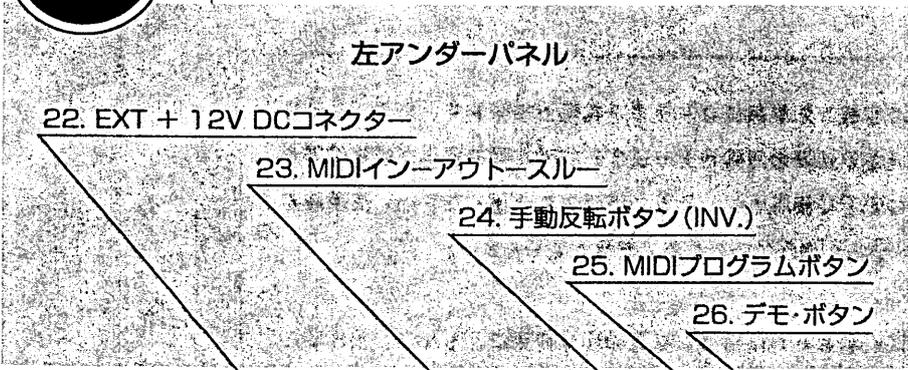
1. メモリーバンク・セレクター
2. トランスポージャー・セレクター
3. テンペラメント・セレクター
4. オン・オフスイッチ



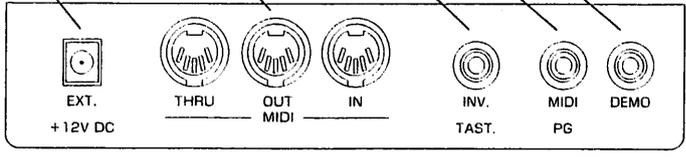
P.11
第4章

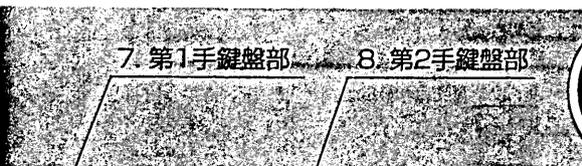
14. エンター・キー
15. セット・ボタン (S)
16. ジェネラル・メモリー

P.13
第6章

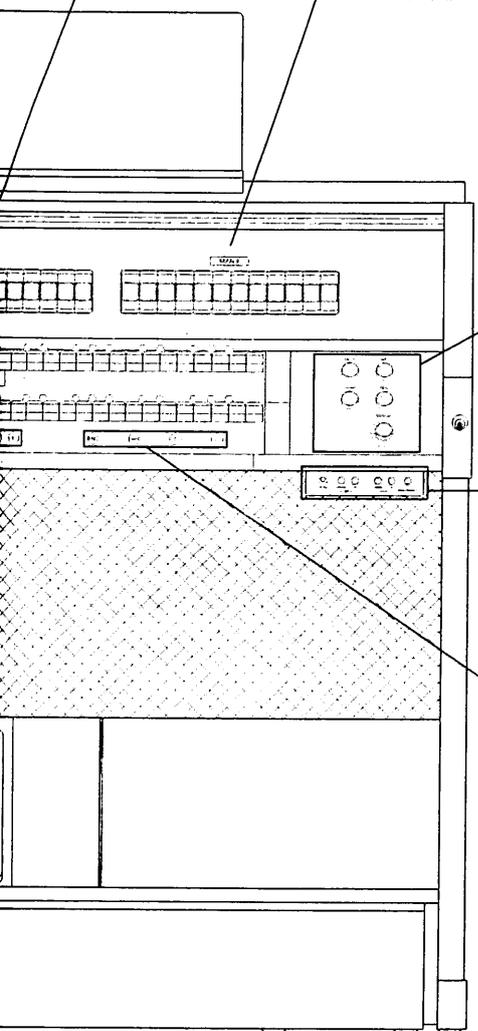


P.13
第5章





P.9
第2章



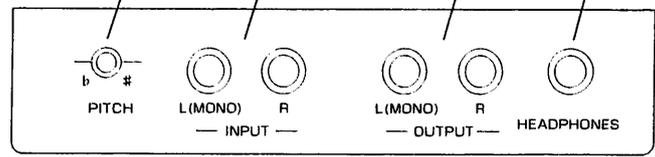
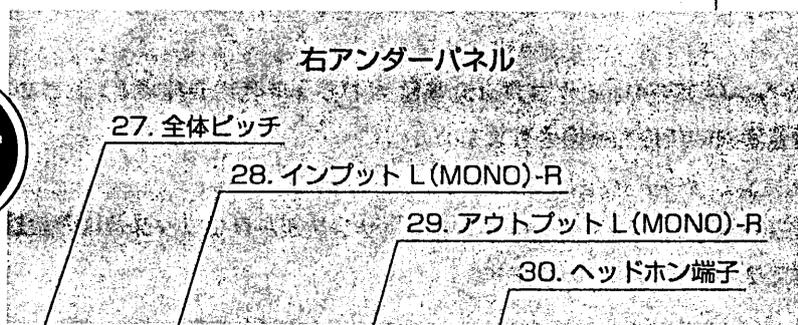
- P.11**
第3章
- 9. マスターボリューム (MASTER)
 - 10. 第1手鍵盤部ボリューム (MAN. I)
 - 11. リバースボリューム (REVERB)
 - 12. 足鍵盤ボリューム (PEDAL)
 - 13. トレモロコントロール (TREMULANT)

- 17. エンクローズド・ボタン (ENC)
- 18. チャイム・ボタン (CHIME)
- 19. トウツティ・ボタン (T)
- 20. キャンセル・ボタン (C)

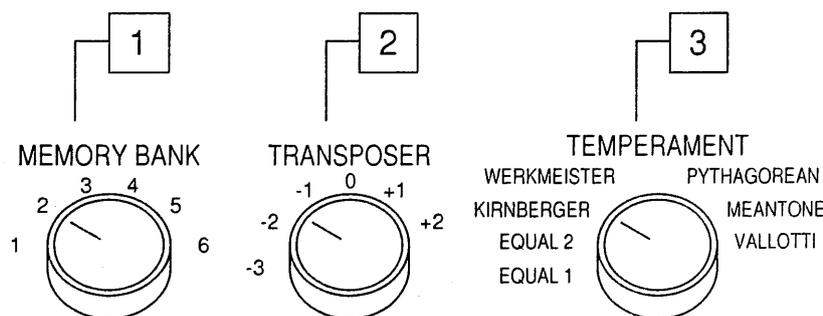
P.12
第4章

クサプレッションペダル

P.14
第6章



第1章 左側パネルのコントローラー



1. メモリーバンク・セレクター：このつまみを回して、6つのメモリーバンクのうちいずれかを選択し、ジェネラルメモリーを設定できます。

2. トランスポージャー・セレクター：このつまみを回して2半音まで高く、3半音まで低く移調できます。

3. テンペラメント・セレクター：この機能を使うと、様々な時代や国々で使われていた調律で演奏できます。古典音楽を忠実に再現したいオルガニストの方のために、ジュビレイト230では、歴史的なテンペラメント(音律)を7タイプ設定しています。

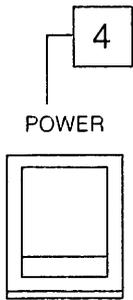
・ EQUAL1, EQUAL2, KIRNBERGER(キルンベルガー), WERKMEISTER(ヴェルクマイスター), VALLOTTI(ヴァロッティ), PYTHAGOREAN(ピタゴラス音律), MEANTONE(ミントーン)

・ EQUAL1-EQUAL2：パイプオルガンで使われている平均律。EQUAL2が一般的な平均律です。

・ KIRNBERGER(キルンベルガー), WERKMEISTER(ヴェルクマイスター), VALLOTTI(ヴァロッティ)：古典派からロマン派にかけて愛された音律です。クラシックの名曲はほとんどこれらの調性的音律によって書かれました。

・ PYTHAGOREAN(ピタゴラス音律)：ギリシャ時代の音律です。ピタゴラス音律は古代ローマに伝わって以来、中世音楽の時代にも使用されました。

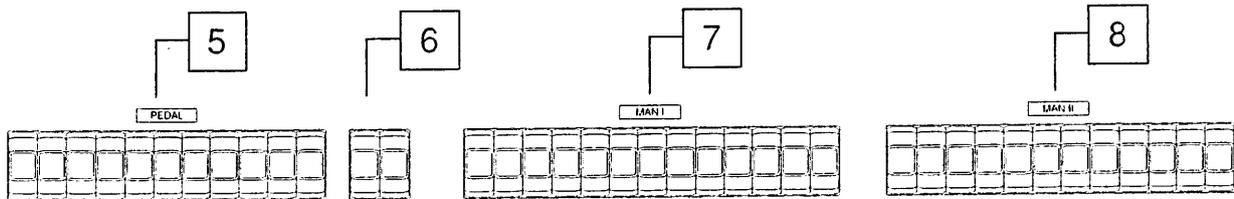
・ MEANTONE(ミントーン)：ルネッサンスからバロック時代の鍵盤楽器における標準的な調律法でした。日本語では中全音律といいます。



4. オン・オフスイッチ：ジュビレイト230のオン・オフスイッチです。

<注意!>雷が鳴り出したら必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

第2章 中央パネルのコントローラー



5. 足鍵盤部：足鍵盤用の全ストップがあります。また手鍵盤同士あるいは手鍵盤と足鍵盤のレジストレーションを連結するボタン(カプラー)もあります。カプラーは、ある鍵盤で設定したすべての音色を、他の鍵盤でも演奏でき、ひとつの鍵盤で2つの鍵盤の音を同時に鳴らすことができます。下記の組み合わせが可能です。

- ・ I/P：第1手鍵盤 (MAN I/グレート)のレジスターが足鍵盤で演奏できます。
- ・ II/P：第2手鍵盤 (MAN II/スウェル)のレジスターが足鍵盤で演奏できます。

さらにここには、MIDIボタン(第6章25項「MIDIプログラムボタン」を参照ください)もあります。オフにしておけば、MIDIノートデータは送信されません。プログラムチェンジ、コントロールチェンジ、システム・エクスクルーシブ等のメッセージの送受信は常にオンです。

- ・ MIDIチャンネル・プログラム機能は、MIDIボタンと第1手鍵盤の下にあるセット・ボタン(S)と一緒に押すことで作動します。MIDIボタンが点滅を開始すれば、希望するMIDIチャンネル番号を入力することができます。
- ・ チャンネル番号は、各番号に対応した鍵盤(エンター・キー)を押して入力します。第2手鍵盤の最も低いオクターブのCからAまでのキーが0~9に対応しています。また次のCは、クリア機能を持ち、最後に入力した操作がキャンセルされます。(第4章14項「エンター・キー」を参照ください)
- ・ 入力したい番号が一桁の場合、たとえばチャンネル6と入力したい場合には、数字0(最低音C)と数字6(最低音F#)のキーを押す必要があります。2番目の数字が入力されると、チャンネル番号が記憶されます。

6. 自動ペダルボタン(A.P)とボイスバリエーションボタン(A/B)

・ 自動ペダルボタン(A.P)：第1手鍵盤を演奏する際、このA.Pボタンを押すと、足鍵盤のレジストレーションが鍵盤の最も低い音に加わります(但し足鍵盤数の範囲内)。たとえば、左手でC、E、G(ド、ミ、ソ)と同時に弾くと、最低音C(ド)にだけペダル音のCが加わり、手鍵盤のみの演奏でも足鍵盤のストップの効果が得られます。

<注意> A.P.ボタン使用時は、ペダル鍵盤は使えません。

・ボイスバリエーションボタン(A/B)：このボタンを押せば、オルガンのサウンドをロマンティック↔バロックに切り替えることができます。点灯時(B)がバロックです。

7. 第1手鍵盤部：第1手鍵盤(MAN I/グレート)のストップがあります。このストップを使って、第1手鍵盤のレジストレーションを作ります。ここには第1手鍵盤と第2手鍵盤のレジスターを組み合わせるカブラーのボタン(II/I：第2手鍵盤のレジスターが第1手鍵盤で演奏できます)、MIDIスタイルボタン(バロッカーロマンティック)および第1手鍵盤用のMIDIスイッチもあります。

8. 第2手鍵盤部：第2手鍵盤(MAN II/スウェル)のストップがあります。このストップを使って第2手鍵盤のレジストレーションを作ります。ここには第2手鍵盤用のMIDIスイッチもあります。

■MIDIについて

MIDIとはMusical Instrument Digital Interfaceの略です。

MIDI(ミディ)は、電子楽器同士をつないで音楽情報や演奏データを交換するための世界共通の規格。楽器同士の互換性がアップします。たとえばジュビレイト・オルガンの鍵盤で演奏したメロディを別のシンセサイザーで発音させたり、ジュビレイト・オルガンで市販のMIDIデータを再生することができます。

以下、MIDIに関して頻繁に使われる用語を説明します。

・MIDIチャンネル：MIDI機器には16チャンネルあります。いろいろなデータのすべてがこれらの16チャンネルを通して別々に送受信されます。結果、最大16台までのMIDI機器を個別にコントロールすることができます。また当然ながら、接続したMIDI機器同士でチャンネルが違えばデータのやりとりはできません。両方のMIDI機器の送信/受信チャンネルは合わせる必要があります。

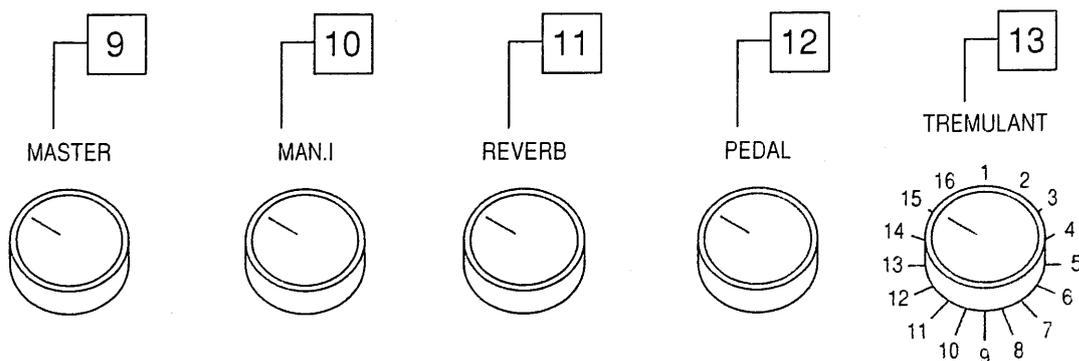
・ノート・オン/オフ：楽器に、どのノート(音符)を、どのくらい長く、どのくらいの強さで弾くかを伝える重要な情報です。

・プログラムチェンジ：プログラムの選択に使います。ほとんどの楽器がメモリーしたプログラムを持っており、それぞれがプログラム・ナンバーに対応しています。メモリーナンバーを知っていれば、好みのプログラムを呼び出すことができます。ジュビレイトでは、ジェネラルあるいは専用メモリーに割り振られたナンバーのボタンを押すことで、希望するプログラムが選択できます。

・コントロールチェンジ：コントロールチェンジデータは、演奏に表情をつけるために使います。たとえば、音量調整(コントロールチェンジ7番)、拡声ペダル作動(同じく64番)、残響度の送信(同じく91番)、コーラス量の送信(同じく93番)などがあります。

・システムメッセージ：MIDIチャンネルとは関係なく、システム全体の調整を目的としたメッセージです。この中には「システム・エクスクルーシブ」、つまり特定の楽器のみが解釈できる指令があります。たとえば、機器のプログラム作成用のバルク・ダンプ(BULK DUMP)などが挙げられます。こうした指令には、通常メモリーエリアに保存されているプログラム作成パラメーターが含まれています。指令は、上述のパラメーターを、ある機器から同じタイプの別の機器へと送るのに使われます。また、外部のメモリーに保存できます(事故等でデータが万一紛失したり消去してしまった場合に、コンピューターやシーケンサーから呼び出せます)。

第3章 右側パネルのコントローラー



9. マスターボリューム(MASTER)：このつまみで、オルガンの全体の音量を調節します。

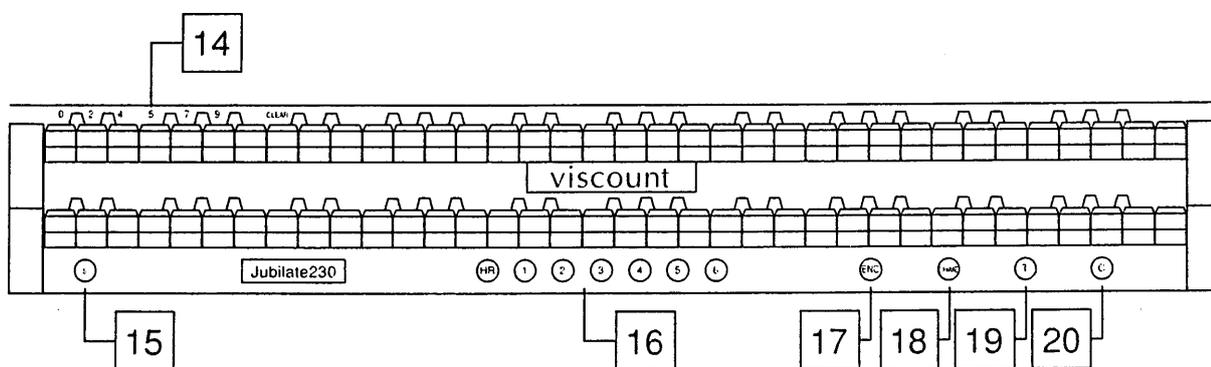
10. 第1手鍵盤ボリューム(MAN. I)：このつまみで、第1手鍵盤部の音量を調節します。

11. リバーブボリューム(REVERB)：このつまみで、リバーブ(残響)量を調節します。自然反響の少ない小さな室内でも、広い部屋やホールで演奏しているような、豊かな残響効果を得ることができます。

12. 足鍵盤ボリューム(PEDAL)：このつまみで、足鍵盤の音量を調節します。

13. トレモロコントロール(TREMULANT)：このつまみで、16種類のトレモロを選べます。

第4章 手鍵盤部パネルのコントローラー



14. エンター・キー：第2手鍵盤の左側、0～9の番号とCLEARの文字がついている鍵盤をエンター・キーと呼びます。この部分の鍵盤を押すことで、MIDIチャンネルをプログラムする際のチャンネル番号が入力できます。プログラムチェンジデータ送信の際にも使用します。

15. セット・ボタン(S)：このボタンは、メモリーをセッティングする時に使います。(詳しくは第2章をご参照ください)

16. ジェネラル・メモリー(HR ; 1-2-3-4-5-6)：作成したレジストレーションは、メモリーに保存できません。ジュビレイト230には、全体のレジストレーションが保存できる6つのジェネラルメモリーがあります。メモリーには、1から6までの数字およびHR(0として扱われる)と記されたボタンがあります。HRプッシュボタンを押せば直前に手動設定したレジストレーションに戻ります。

ジェネラルメモリーのプログラムの手順は以下のとおりです。

- ・まずキャンセル・ボタン(C)を押し、既存のレジストレーションをいったんクリア。その後に希望するレジストレーションを選んで設定変更します。
- ・次に第1手鍵盤の左下にあるセット・ボタン(S)を押してください。ボタンを押しながら、6つあるジェネラルメモリーのナンバーボタンのうち、いずれかを押し、新しい設定内容を保存します。
- ・ジェネラルメモリーでは、複数の鍵盤のレジストレーションが保存できます。複数の演奏者が同じオルガンを使う場合でも、各演奏者は、違うメモリーバンクに違う番号をつけ、各自の設定を保存することが可能です。

17. エンクローズド・ボタン(ENC)：このボタンを押せば、第2手鍵盤用エクスプレッションペダルを使って、オルガン全体の音量が調節できます。

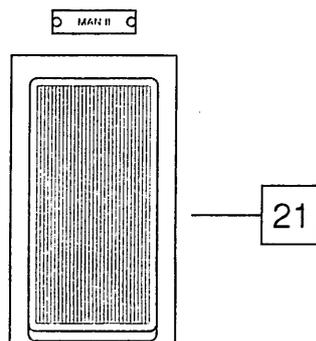
18. チャイム・ボタン(CHIMES)：このボタンを押せば、第2手鍵盤上で、他のすべてのレジスターをカットして、チューブラー・ベルの音を出すことができます。

19. トウツティ・ボタン(T)：このボタンを押せば、メーカーが設定したレジストレーションをすべて作動させることができ、瞬時にフルオルガンの状態(ほとんどのストップが入っている状態)になります。

<注意>トウツティではボイスモジュレーションやトレモロはかかりません。

20. キャンセル・ボタン(C)：このボタンを押せば、オルガンのすべてのレジスターがオフになります。

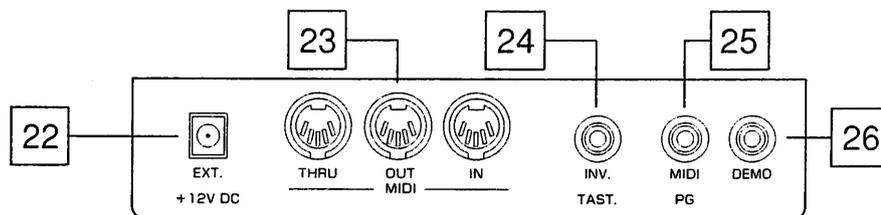
第5章 ペダル部のコントローラー



21. 第2手鍵盤用エクスペッションペダル：第2手鍵盤用のエクスペッションペダルです。第2手鍵盤の音量を調節します。また、エンクローズド・ボタン(ENC)をオンにすれば、このペダルでオルガン全体の音量を調節することもできます。

第6章 アンダーパネルのコントローラーと接続端子

左アンダーパネル



22. EXT + 12V DC コネクター：+12ボルトの電圧が得られる接続端子です。通常は、リモート(REMOTE)機能として利用し、接続したオプションのスピーカー・スイッチを作動させるために使います。

23. MIDIイン・アウトスルー(MIDI IN OUT THRU)：オルガンをMIDI音源に接続するためのMIDI接続端子です。

MIDI機能を使用するためには、データをやりとりするためのMIDI機器とその機器を接続するためのMIDIケーブルが必要です。MIDI機器は通常、以下の3つのMIDI接続端子を備えています。

MIDIイン：他のMIDI機器からMIDIデータを受信するための端子。

MIDIアウト：本機から他のMIDI機器へMIDIデータを送信するための端子。

MIDIスルー：MIDI機器を直列接続するために、MIDIイン・ポートで受信したMIDIデータをそのまま送出します。(第2章「MIDIについて」もご参照ください)

24. 手鍵盤反転ボタン(INV)：このボタンで2つの手鍵盤のレジスターが反転します。第1手鍵盤のレジスターが第2手鍵盤で演奏できます。また第2手鍵盤のレジスターを第1手鍵盤で演奏できます。

25. MIDIプログラムボタン(MIDI PG)：プログラムチェンジデータ送信用ボタンです。MIDIインターフェイスによって外部MIDI機器にプログラムチェンジデータを送信するには、このボタンを押すと同時に、変更したいセクション(足鍵盤、第1手鍵盤あるいは第2手鍵盤)のMIDIボタンを同時に押します(レジスター部に配置。第2章「中央パネルのコントローラー」をご参照ください)。次いで、選んだセクションのMIDIボタンが点滅し始めたら、エンター・キーを使って、チャンネルあるいはプログラム番号を入力します。そして3番目のキーを押す、つまり、3つ目の番号が入力されると、MIDIボタンの点滅が止まり、プログラムチェンジメッセージが送信されます。

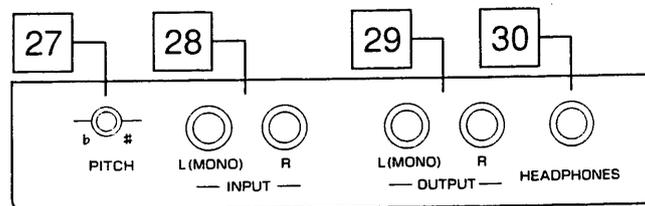
<注意>プログラムチェンジ・メッセージは、エンター・キーで3番目のキーを押さないと送信されません。つまり、3つの数字を入力する必要があります。たとえば、プログラムチェンジ番号30を送信したい場合、0-3-0とキーを押さなければなりません。メモリーが呼び出されると、自動的にそこに含まれたプログラムチェンジデータが送出されます。

26. デモ・ボタン(DEMO)：このボタンを押せば、あらかじめオルガン本体にメモリーされている8つのクラシックデモ曲のいずれかを呼び出すことができます。デモ・ボタンを押しながら、聴きたい番号に対応したエンター・キーを押すことで、デモ曲が選択できます。

ジュビレイト デモ曲

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. ボエルマン | 間奏曲 |
| 2. ヘンデル | 行進曲 ト長調 |
| 3. J.S.バッハ | 小前奏曲とフーガ No.4 へ長調 BWV556 |
| 4. シャルパンティエ | 凱進行進曲(テ・デウムより) |
| 5. J.S.バッハ | 前奏曲とフーガ ホ短調 BWV533 |
| 6. J.S.バッハ | コラール 147「主よ、人の望みのよろこびを」 |
| 7. ワーグナー | 「婚礼の合唱」(ローエン格林より) |
| 8. メンデルスゾーン | 「結婚行進曲」(真夏の夜の夢より) |

右アンダーパネル



27. 全体ピッチ：ここでオルガン全体のピッチを微調整します。納品時のジュビレイトは、A=440Hz(ピッチ調節ノブは中央に配置)に初期設定されています。

28. インプット L(MONO)-R：オルガン本体のスピーカーで外部音源を鳴らすための接続端子。モノラル音源を入力する場合は、L(MONO)の接続端子を使います。

29. アウトプット L(MONO)-R : アンプを使用せず、直接録音したい時に使用するラインアウト出力端子。この接続端子は一般に、カセットレコーダーなどのアナログ録音機器での録音に使います。モノラルでの録音の場合は L-MONOの接続端子のみ使います。

30. ヘッドホン端子 : ステレオヘッドホン用の接続端子。ヘッドホンを接続すると、オルガン本体のスピーカーからは音が出ません。(ホーン・ジャック)

第7章 リセットとローカルオフ

リセット

楽器の調子が悪い、あるいは保守点検をご依頼いただく前に、以下のリセット手順を実行してください。

・ジェネラルメモリーのHR,1,2の3つのボタンを押し、オルガンのスイッチを入れます。2、3秒後に押していたHR,1,2のボタンを離します。リセットをかけると、保存していたメモリーはすべて消えます。

ボイスのローカルオフ

ジュビレイト230が、外部MIDI音源を操作している場合には、複数の音声(voice)を「ローカルオフ(Local off)」モードに切り替える必要が出てくるかもしれません。ある音声はローカルオフ・モードとなり、レジスターが開いていれば、サウンドジェネレーターを動かさなくても(音声はミュート)MIDIコードのみが送出されます。

複数の音声をローカルオフ・モードに設定するには、セット・ボタン(S)を押し、それを押し続けながら、キャンセル・ボタン(C)を押します。すると、作動している音声のランプがすべてつきます。セレクターを使って、ローカルオフを解除するか各音声の通常操作を作動させることができます。この操作モードではセレクターの灯りが消えている場合、音声発生は働いていません。セット・ボタンとキャンセル・ボタンを押せば再び通常の操作に戻ります。

資料 MIDIインプリメンテーションチャート

ヴァイカウント ジュビレイト230

バージョン：1.0

機能		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル	デフォルトチェンジ	1-3 1-16	1-3 1-16	1: 第2手鍵盤 3: 足鍵盤 2: 第1手鍵盤
モード	デフォルト メッセージ 代用	モード3 ×	モード3 ×	
ノートナンバー	トウルーボイス	24-106	24-106 24-106	
ペロシティ	ノート・オン ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ	キー チャンネル	×	×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロールチェンジ	7 11	○ ○	○ ○	メインボリューム エクスプレッション
プログラムチェンジ	トウルー#	0-127	×	
システム・エクスクルージブ		○	○	
システム(コモン)	ソングポジション ソングセレクト チューン	×	×	
システム(リアルタイム)	クロック コマンド	×	×	
オグジュアリーメッセージ	ローカルオン・オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	×	×	

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ

○=イエス
×=ノー

viscount[®]
CLASSIC ORGANS

発売元

ヤマハ株式会社 国内楽器営業本部 施設営業推進室

ホームページアドレス: <http://www.yamaha.co.jp/hall/>

東京 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 (日本生命高輪ビル) TEL.03-5488-1676
大阪 〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 (心斎橋プラザビル東館) TEL.06-6252-3753
名古屋 〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052-201-5115

総輸入元

ヤマハミュージックトレーディング株式会社

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸薬町1-28-5 蛸薬町ビル7F

TEL.03-5641-1031

ホームページアドレス: <http://www.y-m-t.co.jp>